

## おねえちゃんになった

田ノ口小学校 一年 田邊 唯愛

わあ、かわいい。」

びょういんのベッドにねている赤ちゃんを見て、かぞくみんながいいました。わたしはこの日、おねえちゃんになりました。

はじめに、おねえちゃんが赤ちゃんをだっこして、つぎに、わたしがだっこしました。ほっぺたがぶにゅぶにゅして、プリンみたいにやわらかかったです。わたしは、もっともっとさわりたくなりました。おばあちゃんもだっこして、さいごに、おとうさんにかかりました。赤ちゃんは、ちょっとだけなきそうになりました。おかあさんは、

赤ちゃんをうんだから、おなかがいたい。」  
と、つかれたかおでいいました。

なん日かして、赤ちゃんは、おかあさんといっしょに、いえにかえって



きました。赤ちゃんはおんなのこで、名まえは、「あ」にきまりました。のあちゃんは、どんどん大きくなりました。わたしがごはんをたべていたら、のあちゃんがごはんをとろうとしてきます。でも、わたしは、ちょっとうれしいです。なぜかという、わたしにくっついてきてくれるからです。のあちゃんは、わたしのほうへたおれてきたりします。わたしもおれてしまうと、のあちゃんとわたしをいつもささえてくれるのはおねえちゃんのこちやんです。

のあちゃんは、いつもわたしについてくるので、だっこしてあげます。おろしたら、まただきつきます。このまえ、パソコンのいすをとって、そのいすにのぼって、つきにつくえにあがっていました。とてもかわいかったです。のあちゃんは、リモコンのでんちをとったらかなかはなしません。わたしがとろうとすると、

あ、や、ぎやあ。」

といいます。いやがって、おこっているみたいです。のあちゃんは、ちが



うあそびをしていても、わたしがもっている本をとりに来ます。

わたしは、のあちゃんのにこにこがおが大すきです。きのうも学校からかえって、つくえの上にもつをおいたら、のあちゃんがランドセルをとろうとしました。わたしが手をちかづけると、のあちゃんはじぶんの口にわたしの手を入れました。おもちゃの車にのせてあげたら、とてもよろこびました。かくれておどかしたりすると、にこにこしてくれます。ちかくからはなれるとないて、もどってくるとなきやんでわらいます。

生まれて二か月くらいときには、のあちゃんがなくなくと、おかあさんに、  
ゆめ。」

とよばれました。わたしがベッドから出してだっこしてあげたら、すぐになきやむことがおおかったです。

このごろ、のあちゃんは力もつよくなりました。みぎの足とひだりの足をかわりばんこに出しておしてきます。わたしがもっている本をとってやぶったりもします。よくうごくようになったから、つくえにぶつかったり、



手をはさまれそうになったりするときがあります。それから、かいだんをひとりでおりようとすることもあるので、きをつけてあげたいとおもいます。

おばあちゃんから、

「おかあさんに赤ちゃんが生まれる。」

ときいたときはびっくりしました。でも、わたしもおねえちゃんになれるとおもって、とてもうれしかったです。

二月十三日は、のあちゃんのーさいのたんじょう日です。かぞくみんなでお祝いするのがいまからたのしみです。

## ブンタンとり

佐賀小学校二年

武政

ひなた

冬休み、わたしがテレビを見ていると、おばあちゃんが、おじいちゃんのところにもコーラをもって行ってね。」

と言いました。わたしが

ええ、いいところだったのに。」

と言ったら、

おばあちゃんは、手をはなせないから、ひなたが行って。」

とたのまれたので、行くことにしました。

自分のお金で買ったけれど、三円しかなかったから、おばあちゃんに見せたら、五百円玉とこうかんしてくれました。

それから、みやたへ行って、コーラとファンタを買って、自てん車で学校のうらまで行きました。さか道をのぼって、石のところまで止めて、後は

歩いて行きました。

山には、ブンタンとハツサクの木があつて、一番上にはおはかもあります。おじいちゃんは、そこでブンタンをとっていました。おじいちゃんをびっくりさせようと思つて、しずかに行きました。でも、先に、

ひなたか。」

と言われてしまいました。ばれたかと思つたけれど、

おじいちゃん、コーラもつてきたよ。」

と言いました。のんでいるときに、おじいちゃんが、

ひなたは、手っだいに来たが。」

と言いました。ほんとうは、コーラをもつてきただけだったけど、おもわず、

手っだいに来た。」

と言いました。みかんをはさみで切るのがおもしろそうだったからです。

おじいちゃんは、もうブンタンをぜんぶとっていました。だから、わた



しは、ハッサクをとることにしました。

さいしよは、おじいちゃんがとったハッサクをわたしがキャッチしてふくろに入れました。いっばいになったら、ハッサクをふくろから出して、土の上におきました。ハッサクは、オレンジ色で、大きいのが小さいのがあります。目の前にハッサクがあったので、おじいちゃんに、

「ごっち来て、ごっち来て。」

と言いました。自分で切りたかったけれど、おじいちゃんに切られてしまいました。

それから、わたしも自分でとりたくなって、おじいちゃんが切っているところを見てまねをして切ってみました。さいしよに、ハッサクの上の方を切って、もう一回ねもとを切りました。切りながら、おじいちゃんが教えてくれました。一つ切ったら、おじいちゃんが、

「上手。」

と言ってくれました。それから、おもしろくなって七ことりました。おじ



いちちゃんが切るときに、わたしの目にごみが入っていたかったです。帰る時に、水しようブントンの大きいのを一つもって帰りました。後のブントンやハッサクは、そのままおいて帰りました。

夜、おじいちちゃんが、

明日は、おはかだよ。」

と言いました。

つぎの日、また、ハッサクのところに行って、おじいちちゃんの手つだいをしました。おじいちちゃんが切ったハッサクをキャッチするのをやりました。ふくろにハッサクを入れてわらをしいているところへもって行ってなべました。おわるまで、おろしたり、ならべたりしました。数えていないけれど、いっぱいありました。

ぜんぶおわったと思ったら、おじいちちゃんが、

ひなた、後ろ。キャッチして。」

と言ったので後ろをむくと、おじいちちゃんがハッサクをポンとなげました。



とつぜんだったから、キャッチしたけれどおとししまいました。

それから、ブンタンとハッサクにわらをかぶせて、その上に木のえだをのせました。そして、おはかのそうじをしてから帰りました。わたしは、ブンタンやハッサクにどうしてわらをかぶせるのかなと思いました。

家に帰ってから、

わらをかぶせたら、どうなるの。」

と聞きました。そしたら、おじいちゃんが、

わらをかぶせたら、甘くなる。わらのあと、木のえだとかをかぶせて、

一か月おいちよるがよ。」

と言いました。一か月おいたら、わたしがとったハッサクもおいしくなるんだなと思いました。おいしくなるのが楽しみになりました。

もって帰った水しようブンタンを食べたら、とってもあまくておいしかったから、一人でぜんぶ食べました。おじいちゃんにも、一つだけあげました。おじいちゃんの作るブンタンはとてもおいしいです。



ブントんとりをして、楽しかったです。おじいちゃんが、いろいろなことを教えてくれたので、うれしかったです。また、来年も手つだいたいと思います。

## 豆ふ作り

田ノ口小学校三年 川村 米音

「ブーン」また今年も、家の外からあの音が聞こえてきた。この音は、毎年恒例の、豆ふ作りの音です。毎年、十二月三十一日か、年明けの一月一日ぐらいにわたしたちの家は作ります。

おばあちゃんのむすめや、まごたちが帰ってきて、みんなで作ります。今年も、十二月三十一日に作りました。今回は、今までとは作るしゅるいを一つふやしてみました。それは、大豆の色です。今までは、白い豆だけだったけど、黒も入れてみました。

まず、一ばん水につけた豆を、水といっしょに、ミキサーで形をくずしました。いっぱいあったので、それを、一つの豆のしゅるいのりょうで、大きなたらい一つ分くらいあるから八回くらいに分けてミキサーに入れて形をくずしました。それは、四年生のいとこと二人でじゅんばんでやりま



した。全部できたら、また、たらいに入れて、かまの中に、ドサドサと入れました。少し重かったです。

まず、ふつうの白い大豆から作る豆ふです。だんだん火が通っていくと、たけのこみたいなにおいがしてきました。ようく大きなしやもじで下のほうをまぜました。それも、いとこと二人でやりました。かまどの火のけむりが目に入って、すぐくいたくなりました。そのとき、わたしが、

美人な人には、けむりが来るがで。」

と、自まんそうに言いました。すると、いとこのお母さんも、

あっ、わたしのところにも来よう。」

と言いました。みんなで笑いました。すると、あわがもれそうになったので、ぬかを入れようとしたとき、三分の一くらいふつうにこぼれてしまつて、お母さんたちが、

きゃー。お母さん早よ来て。」

とおばあちゃんに言いました。そしてわたしもおばあちゃんに、



やばい。」

と言いました。おばあちゃんは、

もうええけん、しぼろうや。」

って言うて、しぼることになりました。

わたしといたこが板をちゃんと持って、わたしのお母さんがぼうを使っ  
てしぼる役です。いとこのお母さんがぬのをしっかりと持って、その中へ  
火の通った豆をひしゃくで入れます。長いぼうをぬのにまきつけて、ぐる  
ぐるしぼりました。ぬのにのこったのは、おからになりました。少し食べ  
てみました。でも、味は全くしませんでした。

次は、しぼったしるのとうにゆうに、にがりを入れます。そのとき、い  
とこのお母さんが、

よし。にがりを入れるで。」

と言ったので、わたしといとこは、

それってほんとに苦いが。」



と聞いたら、  
なめてみ。」

と少しひっかけるように言いました。小指でちよつと、とってなめました。口の中が大きわぎでした。わたしといところは、いっしよに、

いじめやー。」

と言いました。わたしが思ったとおりでした。わたしのお母さんも、

なめるけん悪い。」

とか言いました。ちよつとはらが立ちました。めちやくちや苦いし、からいし、言葉で言うと「苦から」です。すごかったです。水でうがいをしました。たちまちセーフでした。口直しに、ジュースとおかしを食べました。

とうにゆうに、にがりを入れたら、だんだん水の部分と、とうふが分かれてきました。それを、四角くて、すき間がある、ざるみたいなものにおいて、形になるまでまちました。その下にもばけつをおいておきます。それはまだしるが出るからです。



次は、初めて作る黒い大豆から作る豆ふです。でも作り方は同じです。それで、さっきしっぱいした、あわがこぼれた所は、なんとかぬかを早めに入れて、少しこぼれるくらいですみました。でもお母さんたちは、さわいでいました。あぶないところでした。

夜みんなで食べました。黒い大豆から作った豆ふは、ごま豆ふみたいでした。

また、来年もみんなで作るのが楽しみです。

## 家族の温かさ

南郷小学校四年 岩本 ころろ

わたしのひいばあちゃんは九十七才です。わたしが産まれた少し後に、様子がおかしいので病院に行った結果、アルツハイマー病（はん知症）になりました。ひいじいちゃんもひいばあちゃんといっしょに、アルツハイマー病になっていました。想像よりかはパニックになりませんでした。その時は、まだ八十六才ぐらいだったので、まだ元気でした。お母さんは赤ちゃんのわたしがいるし、お父さんも仕事。ばあちゃんもじいちゃんも大工の仕事でまかせられなくて子もちのお母さんは、二人のかいごに困っていたそうです。

わたしが産まれて、四年たつと弟も生まれ、家庭がいそがしくなっても、みんなで役わりを決めて、がんばっていました。わたしが六才になると、ひいばあちゃんは、九十三才になって、だんだん弱っていきました。ひい



じいちゃんは、病院から天国にいきました。

おそう式とひいばあちゃんのかいごの練習、子育てと、お母さんはいそがしくなったけど、お父さんと協力して、一息つける段階になりました。

現在は、わたしも小学四年生。弟は、年長。お母さんもかいごの話ができるカフェを開き、ひいばあちゃんもデイサービスに行ったり、家で楽しく住んでいます。

ひいばあちゃんは、朝の九時から夕方の四時まで、デイサービスで生活しています。デイサービスでは、おじいちゃんやおばあちゃんが集まって、リズム体そうやしようぎ、小学生のふれあいやいろいろな事をします。ひいばあちゃんは、車いすだけど、デイサービスのみなさんが、移動や、トイレなどをしてしてくれます。わたしたち子どもが行ってもしよく員さんや、おじいちゃんおばあちゃんが、笑顔で出向かえてくれます。

よく来た、よく来た。なにをして遊ぼうか。」  
と、楽しそうにしてくれるのでこっちも元気になります。

帰る時間まで、ビーズのうでわを作らんかえ。」  
とか、

昔はこんな遊びもあったがよお。」

と昔の遊びも教えてくれます。大先ぱいに、宿題も教えてもらいます。一人が分からなくても、ほかの人たちをよんで、考えてくれます。それを見てわたしは、体が弱かったって、うれしいし、友達思いも変わらないんだと分かりました。

おばあちゃん、おじいちゃんを家までおくってくれるので、お母さんもお父さんも安心です。ひいばあちゃんがかえってくると、わたしは、ひいばあちゃんの部屋で勉強をします。

そここちがうよ。」

と言ってアドバイスもしてくれます。ごはんもつくえにおいてもらうと、自分で食べれます。わたしが作ったごはんは、

おいしい。こんなにおいしいごはんは食べたことがないよお。」



とほめてくれます。ねる時もいっしょにねます。わたしは、そんなひいばあちゃんが大好きです。

わたしは、にん知症になっている人のサポーターにもなっています。わたしは子どもからお年よりまでが、くらしやすい国にしたいです。にん知症を、治す薬はないけれど、忘れていくことが今よりひどくならないようにする薬も現在はできています。

わたしのお母さんが言う、

「にん知症は、けっして病気ではない。」

という言葉が心にしみました。

にん知症のお年よりが事故に合うこともふえてきました。にん知症予ぼうには、おしゃべりや、にん知症予ぼうを早めにするのがオススメです。

わたしは、これからもひいばあちゃんや家族の役に立ちたいと思います。そして、ひいばあちゃんがいつまでも元気でいてくれることが、わたしの願いです。

## だれもが幸せに

田ノ口小学校五年

秋田 星空

わたしの家のすぐとなり障がいのある人が住んでいる「かきせ」というケアホームがあります。障がいのある人」と聞けば、文字を書くことができなかったり、うまく言葉を話すことができなかったり、体が不自由な人を想像してしまいますが、かきせに住んでいる人たちは、文字をかくことができません。働くこともできません。このかきせに、最近新しく入ってきた人がいます。私がこの前家の前を散歩していると、ちょうどその人の部屋が見えました。部屋には習字で書かれたものがかざられていて、きれいな字でかかれていました。

このあいだ登校中に、その人が、  
おはよう。」

と声をかけてくれました。その人とはめったにあわないのであまり話した



ことはありませんでした。でも、向こうから、  
おはよう。」

と声をかけてくれたので、私も、

おはよう。」

とにっこり笑ってあいさつをしました。とてもうれしくなりました。

他にも知っている人がいます。足が不自由なおじいさんですが、ビーズ通しや絵をかくのがとても上手です。よく私にビーズで作ったブレスレットをいくつもくれました。手先が器用なんだと思います。もう一人、やさしくて、見かけたときにはいつも声をかけてくれる人がいます。登校するとき仕事場に出かけていくところを見かけます。いつも自転車で出かけています。毎日自転車坂のある道を通っているので大変じゃないのかなあと思ったりもします。元気いっぱいがんばっているのですごいと思います。

私が思う「障がいのある人」は、自分の得意なことをいかして、一生け



ん命がんばっているというイメージが強いです。

十月の終わり、私たちの学校では毎年、中村特別支援学校に交流に行きます。この交流は今年で二十一回目だそうです。二十一年も続いていることを聞いてびっくりしました。交流するまでは、支援学校の人はどんな感じなんだろう。どうやって接したらいいんだろうと少し不安でした。でも、六年生といっしょに支援学校の友達をしようかいしているDVDを見たり、先生の話の聞いたりしていると不安はなくなり、早く交流したい気持ちになりました。

いよいよ交流当日、学校に着くと、たくさんの友だちが体育館の入り口で出むかえてくれました。入り口にはかんげいのかん板も置かれていてうれしくなりました。

先生に手をひかれている人、大きな車いすに乗っている人、目が見えない人、みんながむかえてくれました。

自己しようかいの後、中特GO！ ポケモンゴーをかえたもの）をしま



した。私といっしょに手をつないだのは二年生の男の子でした。最初は、自分からなかなか手をつなごうとしてくれませんでした。でも、いっしょに行動するなかで自分から手をつないでくれるようになりました。いっしょに中特GOをしているということまで心が通じたんだと思い、すごくうれしくなりました。

私は、障がい者だからといって差別される人がいるということを知ったことがあります。みんな一人ひとりちがうのはあたりまえなのに、自分と少しちがうからといって差別することはおかしいと思います。差別される人の気持ちを考えれば、差別するはずがないのに・・・だから相手の立場になって考えることが大切なのだと思います。自分がされていやなことは言わない。しない。」と先生はよく言います。自分に置きかえることで相手のことを考えられるということです。

最後に今回の交流をしたことで大事だとおもったことがあります。一つは、相手の立場になって考えること。もう一つは、障がいがある人のこと



を知らない人に伝えることです。  
障がい者差別だけでなく、あらゆる差別をなくしみんなが安心して、そして笑ってくらせるようになれば、たくさんの人が幸せになれると思います。